



長野市・須坂市・中野市・飯山市
小布施町・山ノ内町・高山村
木島平村・野沢温泉村・栄村

衆議院議員しのはら孝 活動紹介特集号

発行元：民主党プレス民主編集部
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1
TEL 03-3595-9988 (代表)

連絡先：長野県民主党第一区総支部
〒380-0928 長野県長野市和若里4-12-26
TEL 026-229-5777

2010年8月発行

明日の日本
生活が第一

第12号
2010夏号



農林水産副大臣を拝命!



六月九日、菅新内閣で農林水産副大臣に就任したしのはら副大臣は以下のように所信を語った。

六月九日、農林水産副大臣を拝命しました。午後四時三十分頃、着慣れないモーニングを着て認証式も済ませ、身の引き締まる思いです。

慌しい宮崎入り

その後すぐ、農林水産省に戻り、モーニングから平服に着替え、省内の口蹄疫対策本部会合、そして官邸の第三回口蹄疫対策本部会合に出席。翌日朝には宮崎入りし、私が副大臣になつてから農林水産省にいたのはたった一時間足らずというドタバタ就任でした。

疲弊した農林水産業の建て直し

ともあれ、まず副大臣拝命の所信を述べておきたいと思えます。

正直言つて骨の折れる難問ばかり山積しており、今の時点で農林水産省入りすることに胸を踊らせているわけはありません。日本の農林水産業、農山漁村は今も青息吐息であり、今手を打たなければ、日本の地方経済も、食料安全保障も成り立たず、地域社会が崩壊してしまいます。もつと具体的なことを言えば、私が〇四年以来手がけて

捨て身の政治活動

きた農業者戸別所得補償が相当歪んだ形で実施されんとしており、これを正さないと、農村は更に混乱してしまいます。現在、同政策はモデル事業と銘打っており、十一年度の本格実施に向けて新しく変えられますが、更に変なふうになされたらたまりません。立案者の一人として敢えて「火中の栗を拾う」決意をした次第です。

九十六年、今から十四年前の秋、羽田孜元首相から政界入りの声をかけられてから長い歳月がたちました。「民主党の政権獲りに協力してくれ、農政は君に任ず、絶対当選させてやる」等々いろいろ誘惑の言葉かけられました。政治家になれば君が本に書いている理想の政策を、十倍、百倍の力で実現できる」という一言も耳に残っています。今は農業者戸別所得補償がその典型と納得しています。

私は五十五歳で政治家の仲間入りをしました。ある同僚に言わせると、渡辺恒三さんに次いで捨て身で何でも自由に言える立場にあり、現にそうしているさうです。つまり、後のことは考えずに思い切り発言し、政治活動ができるということなのです。

菅内閣の一員として

役人生活三十年、十分に仕事をしたと思っています。その後は、私にとっては余業

ですが、十六万人もの有権者に私の名前を書いていただき、日本の政治を託されたのです。今までもいつも政治生命を賭けて発言、行動、発信してきました。しかし、副大臣として内閣入りしたため、有権者ばかりでなく菅内閣の一員と

6月16日に150日間の会期を終え閉会しました。第174通常国会は、鳩山由紀夫前首相の退陣による中断や、参院選日程の為に会期の延長が出来ず、このことが影響し、政府提出法案63件中35件の成立にとどまりました。成立率は55.6%で、通常国会としては戦後最低な率です。

私は、第173回臨時国会より、衆議院財務金融委員会の筆頭理事の職にあり、まさにこの政府法案成立の任にあつていました。委員会の開催は、与党の理事が委員会を開くために内々で野党の理事にコンタクトをとり、与党としての意向を話し、野党の希望を聞き入れ、与野党の理事懇談会を介して、日程を決めて開きます。ところが、委員会によっては、与党理事が何度足を運んでも、野党の理事が面会をしてくれず、コンタクトさえままならず一向に開催できなかったものもあつたようです。そのような中、我が財務金融委員会だけは、順調に委員会を開き続け、第174回国会に当初から提出された6本の法案全て成立させる

財務金融委員会提出法案100%成立のカギ しのはら孝

しての大事な責任もあり、今後は少しセーブしなければならぬ部分もありますが、基本的には私のペースを崩さないで全力を尽くすつもりです。皆様の、今後更なるご支援、ご助言を心よりお願い申し上げます。

ことが出来、法案成立率100%となりました。ただ、小規模共済を救済するための共済法の改正案が会期末になつて急遽提出され、それが終盤国会の乱れで成立しなかったのが心残りです。私に對峙すべき野党の理事は、自民党筆頭理事の竹本直一氏で、我が母校の京都大学卒業、建設省より国会議員になられた、かねてから親交のある方でした。細かいことにはこだわらないさつぱらんな人柄で、わざと邪魔して審議を延ばす戦術など、私とらないう大人物で、私の切実な要求を快く受けていた。他の委員会運営の膠着状態を尻目に、我が財務金融委員会だけが順調に委員会を開催していったのですから、竹本筆頭が野党になり何かと審議をとめたい自民党の国対には嫌味を言われておられたと後で知りました。委員会の折衝のつは、小ざかしい駆け引きや強硬な姿勢などではなく、信頼関係に他なりません。次期国会で予想される参議院の混乱解決のカギもこの信頼関係ではないかと思えます。